

智頭町と慶應義塾大学 SFC 研究所
『地域おこしに関する研究開発の連携協力協定』を締結
— 連携事業の第1弾として、智頭町の高校生・大学生を応援する
「智頭町おせっかい奨学パッケージ」を共同開発 —

智頭町（鳥取県、町長：寺谷誠一郎）と慶應義塾大学 SFC 研究所（所長：玉村雅敏 以下、SFC 研究所）は、2019年11月7日、『地域おこしに関する研究開発の連携協力協定』を締結します。

連携事業の第一弾として、智頭町と SFC 研究所は、智頭町の高校生・大学生を応援する「智頭町おせっかい奨学パッケージ」を共同開発します。この奨学パッケージは、智頭町の高校生・大学生が、世界各地で活躍すること、そして、地域に戻り、地域の一員として、さらなる活躍をすることを支援するというものです。智頭町では、SFC 研究所の社会イノベーション・ラボと SFC 研究所が連携する鹿児島相互信用金庫（そうしん地域おこし研究所）が有する知見をもとに、日本財団・鳥取県庁の支援を受けながら、約1年間、検討してきました。今後、SFC 研究所の助言・支援のもとで、さらなる共同開発を行い、智頭町ならびに関係者で「おせっかい応援団」を編成して、活動を推進します。加えて、智頭町と鳥取信用金庫の連携のもと、奨学ローンや、創業支援、Uターン支援などの支援施策も推進します。

また、智頭町に在住し、智頭町の未来を先導するテーマや「おせっかい奨学パッケージ」に関わる研究開発に挑戦する慶應義塾大学の大学院生を、智頭町「地域おこし研究員」として任用することも予定しています。（※ 智頭町「地域おこし研究員」の任用・就任は、智頭町での諸条件が整った後となります）

1. 協定の概要

（目的）

慶應義塾大学 SFC 研究所に設置する社会イノベーション・ラボと、智頭町の緊密な連携のもと、相互に協力し、地域おこしに関する研究開発を行うことにより、活力ある地域社会の形成と、未来社会を先導する人材育成、実学の促進等に寄与することを目的とします。

（連携協力事項）

前項の目的を達成するために、次の事項について連携し、協力します。

- (1) 地域おこしや地方創生に関する研究開発に関すること
- (2) 地域おこしや社会イノベーションを担う人材育成に関すること
- (3) 両者の知的、人的及び物的資源の活用に関すること
- (4) その他、本連携協力の目的を達成するために必要な事項

2. 協定書調印式

日 時： 2019年11月7日（木）16:00～

場 所： 智頭町総合案内所（鳥取県八頭郡智頭町大字智頭2067-1）

出席者： 寺谷 誠一郎（智頭町長）

玉村 雅敏（SFC 研究所 所長／慶應義塾大学総合政策学部教授）

<問合せ先>

■ 智頭町役場 企画課（担当：國岡）

電話：0858-75-4112、FAX：0858-75-1193、E-Mail：m-kunioka@town.chizu.tottori.jp

■ 慶應義塾大学 SFC 研究所 社会イノベーション・ラボ（担当：稲垣・菅井）

電話：03-4590-0444、FAX：045-330-4343、E-Mail：si-lab@sfc.keio.ac.jp

（配信元：慶應義塾大学 湘南藤沢事務室 学術研究支援担当）

電話：0466-49-3436、FAX：0466-49-3594、E-Mail：kri-pr@sfc.keio.ac.jp

智頭町「おせっかい奨学パッケージ」により実現したいこと（目的）	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域外で学び経験を積んでから「智頭町に帰ってきたい!」という希望を叶える。 ・企業、団体、住民などと共に子どもたちを支える仕組みを設けることで、みんながみんなを支える「おせっかいの町づくり」を推進し、安心して暮らせる町に。 ・「誰もが挑戦できる」奨学金制度の導入により、地域で学べる学校に限られる地理的不利を軽減し、子どもたちの「学ぶ機会」「挑戦する機会」の確保。 ・地域外での生活を支援し、仕送りの不安を減らすことによる子育ての不安の軽減、安心して産み育てられるまちづくり。 （※この奨学金は学費支援では無く、毎月定額で生活資金を提供するもの） ・一人ひとりの人生に寄り添える未来の智頭を牽引する人材の育成。
経済	<ul style="list-style-type: none"> ・遠方の高校への進学を希望する生徒や、県外への進学を希望する町出身の高校生の進学の夢を、経済的にあきらめることなく実現できる制度を設けることで、智頭町への感謝と想いを持ち、将来、智頭町に帰り活躍してもらえる若者を増やす。 ・Uターンを想定した雇用機会を生み出し、域内の所得を創出。 ・地域内での消費喚起を促す仕組みづくりによる経済の活性化。 ・地域金融機関と連携し、資金・ネットワーク・情報などを活用した地域活性化。

智頭町「おせっかい奨学パッケージ」の構成

①おせっかい 奨学町民登録制度	<ul style="list-style-type: none"> ・趣旨に賛同する智頭町の中学生・高校生の登録制度 （大学等の卒業10年以内にUターンする可能性がある方）
①おせっかい 奨学ローン	<ul style="list-style-type: none"> ・趣旨に賛同する金融機関と連携協定を締結 ・金融機関の協力のもとで、通常より金利を優遇した「奨学ローン」を提供。生活資金部分を支援するものとして奨学生の保護者に貸与 ・在学中は利子のみ支払い。卒業後に証書貸付型ローン(返済期間10年)に借換えて、元利金を返済
②おせっかい 奨学金助成制度	<ul style="list-style-type: none"> ・町が奨学基金を創設し、助成する制度 【利子】就学支援として利用者全員に奨学ローンの利子相当額を助成 【元金】Uターン促進として、卒業後10年以内にUターンした場合、奨学ローンの元金相当額を助成
③おせっかい 奨学寄付制度	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が一体となって子どもたちを支援する意識の醸成と持続性向上のため事業者・個人による寄付や、ふるさと納税を募る制度
④おせっかい 交流&共同開発事業	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学生と智頭町とのつながりを持ち続ける交流事業を実施する制度 ・奨学生は、金融機関等の支援のもとで、地域の事業者との寄付付き商品の開発や、インターンシップなど行う
⑤おせっかい 就職&起業支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の就職・起業情報を発信、支援 ・金融機関と連携した就職・起業支援、講座開催 ・Uターンへ向けた総合的な支援

※これまで、SFC 研究所では、各地の自治体や金融機関とともに、長島町「ぶり奨学プログラム」、氷見市「ぶり奨学プログラム」、大崎町「リサイクル未来創生奨学パッケージ」等の共同開発も行っています。

【参考2：「地域おこし研究員」について】

「地域おこし研究員」とは、SFC 研究所（社会イノベーション・ラボ）と長島町（鹿児島県）・神石高原町（広島県）・三条市（新潟県）・釜石市（岩手県）・鹿児島相互信用金庫（鹿児島県）・大山町（鳥取県）・能代市（秋田県）・大崎町（鹿児島県）・東川町（北海道）・花巻市（岩手県）・邑南町（島根県）・老崎市（長崎県）・智頭町（鳥取県）等が共同で提唱・検討・推進をしているものです。慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（SFC）と連携する自治体・組織が、総務省「地域おこし協力隊」「地域おこし企業人」の制度や、独自制度・職員派遣制度等を活用し、地域に在住しながら、地域の現場で実践的な研究活動を行う SFC の大学院生等を対象に、自治体・組織の選考により任用や任命されるものです（自治体等の選考や任命と、大学院の入学試験は連動しません）。

「地域おこし研究員」は、SFC からの遠隔と対面での研究指導・支援のもと、地域に新機軸を実現するテーマを設定して活動するもので、地域創生の実学を推進しながら、地域が抱える課題を、多様な主体の協働や連携を実現することで、共に解決することを目指します。

SFC では、大学院政策・メディア研究科（社会イノベータコース）にて、遠隔と対面の助言や研究指導を行い、実践的な研究成果を達成できるように支援します。また、各種の講義や演習を E ラーニングやビデオ会議のシステムを用いて、遠隔受講できるようにすることや、現地での実践的な研究活動を行いながら学ぶからこそ効果的に学習できる授業設計を行っています。

「地域おこし研究員」は、2017 年 10 月より活動を開始し、これまで、長島町・神石高原町・三条市・釜石市・鹿児島相互信用金庫・大崎町・大山町・花巻市にて 11 名が任用・任命され、活動してきました。鳥取県では、大山町にて、地域おこし研究員（松浦生さん）が活動しています。

【参考3：「地域おこし研究員」を募集・任命する自治体・組織】（2019 年 9 月 30 日現在）

自治体・組織	研究テーマ（例）
長島町（鹿児島県）	「地域商社プロジェクト」「食×地方創生」など
神石高原町（広島県）	「最先端技術活用実証プロジェクト」「企業誘致プロジェクト」など
三条市（新潟県）	「三条市スポーツまちづくり×ものづくりプロジェクト」「スポーツまちづくり」など
釜石市（岩手県）	復興まちづくりとラグビーワールドカップ開催を活かした、「オープンシティ釜石」と「社会イノベーション」を加速させる研究開発
鹿児島相互信用金庫	実践型研究所「そうしん地域おこし研究所」を拠点に「地域おこし×CSV」の研究開発
大山町（鳥取県）	超住民参加型・大山町営テレビ「大山チャンネル」活用、「こどもと楽しいまちづくり」など
能代市（秋田県）	「バスケの街づくり」などの地域資源を活用したまちを元気にする研究開発
大崎町（鹿児島県）	「リサイクル率日本一」のチカラを活かした「リサイクル未来創生プロジェクト」など
東川町（北海道）	「日本の未来を育むプロジェクト」に関わる研究開発（準備中）
花巻市（岩手県）	花巻市地域おこし研究所を拠点に「地域おこしプロジェクト」の研究開発
邑南町（島根県）	「A 級グルメのまち」のチカラなどを活かした社会システムの研究開発

【参考4：慶應義塾大学 SFC 研究所について】

SFC 研究所は、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科、総合政策学部、環境情報学部の附属研究所として 1996 年 7 月の発足以来、21 世紀の先端的研究をリードしてきました（現在は、看護医療学部、大学院健康マネジメント研究科を加えた、3 学部 2 研究科の付属研究所となっています）。

諸科学協調の立場にたって国内外のさまざまな関連活動と双方向の連携をとりながら先端的研究を行い、社会の発展に寄与することをその目的としています。（<http://www.kri.sfc.keio.ac.jp/>）

SFC 研究所では、2001 年から、先端的研究ミッションを持つ研究グループである「ラボラトリ（ラボ）」を設けています。ラボは同じ研究テーマを持つ SFC 研究所内の研究者により、横断的・融合的に構成された組織であり、研究ミッションの特定により、各ラボの研究活動目標、研究対象、活動領域をより明らかにし、国内外の民間企業や研究所、国、地方自治体、他大学などとの研究交流を促進することを目的としています。

智頭町と SFC 研究所との連携においては、SFC 研究所では「社会イノベーション・ラボ」が中心となり、助言・協力体制を構築します。社会課題の解決をもたらすには、科学技術が社会に実装されることによって促進される側面（科学技術イノベーション）と、新たな商品・サービスや制度・組織などが作られることによって、人々のつながりや相互作用に変化をもたらすことで促進される側面（社会イノベーション）の双方があり、社会課題解決の実現において、この「科学技術イノベーション」と「社会イノベーション」の2つのイノベーションの相乗効果が重要です。SFC 研究所「社会イノベーション・ラボ」では、社会をよりよい方向に変えるための「社会イノベーション」のあり方やその実践モデル、支援ツール、科学技術イノベーションと社会イノベーションの相乗効果の実現モデルなどの研究・開発に取り組んでいます。